

精神・神経疾患克服に向けた研究推進の提言について

日本脳科学関連学会連合は脳科学の発展とその普及を目的として、基礎・臨床脳科学の関連 19 学会の連合体として平成 24 年に発足し、脳科学コミュニティの意見集約とその表明を一つの重要なミッションとして活動を行っております。

脳科学の社会への大きな貢献の一つは、精神・神経疾患の診断・治療・予防についての科学的根拠の提供と推進です。現代社会は、感染症、胃腸疾患、循環器疾患など命に関わる多くの疾患の克服により、長寿社会を達成しつつある一方で、豊かで実りある生活をおびやかす多数の神経疾患の脅威に直面しています。また近年、精神疾患は患者数の増大とともに、自殺や就学・就労困難などの社会的な機能の低下を伴うなど、大きな社会的損失をもたらす重要疾患であることが注目されています。そして、これらを克服する為に、脳科学、ゲノム科学、情報科学などと連携した精神・神経疾患の病態解明と、それに基づいた治療法開発の機運も高まりつつあります。

このような社会的状況と脳科学の進展を受けて、この度、日本神経学会が「神経疾患克服に向けた研究推進の提言」を、また日本精神神経学会、日本生物学的精神医学会、日本神経精神薬理学会、日本うつ病学会、日本統合失調症学会が合同で「精神疾患克服に向けた研究推進の提言」を作成した事は、脳科学を基盤とした精神・神経疾患の克服への道程とその実現に向けた研究体制を明確にする上できわめて重要な事であると考えます。疾患研究推進のためには、基礎研究の推進と基礎・臨床の連携が重要であり、本学会連合はこれらの提言の趣旨を支持すると共に、提言の個別の内容に対する研究者の多様な意見に留意し、今後更に合意形成の努力を積み上げていくことも本連合の重要なミッションであると認識しています。

今回作成された二つの提言の趣旨が本連合所属学会、更に研究者コミュニティ全体において共有され、また広く国民の理解が得られることを希望すると共に、これらの提言を基礎とした施策が実現するよう本連合としても努力したいと考えております。

平成 25 年 9 月 24 日

日本脳科学関連学会連合

参考：

[「神経疾患克服に向けた研究推進の提言」](#)（日本神経学会）

[「精神疾患克服に向けた研究推進の提言」](#)（日本精神神経学会、日本生物学的精神医学会、日本神経精神薬理学会、日本うつ病学会、日本統合失調症学会）